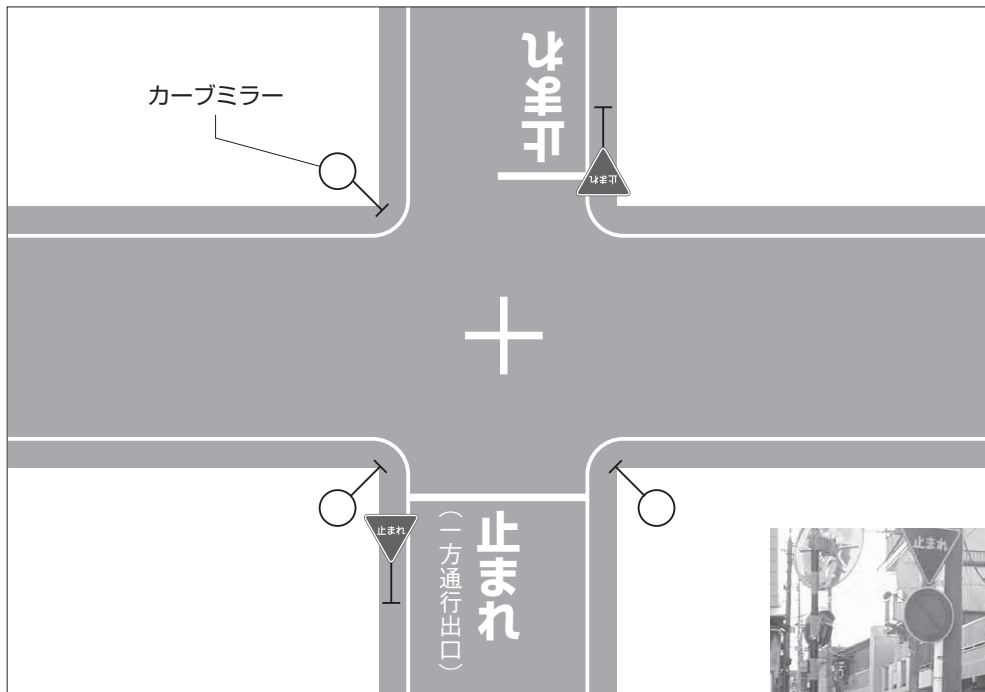


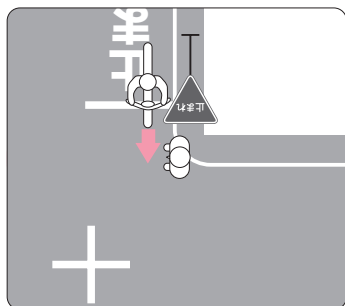
Q1

自転車利用者210人中、左右の安全確認をしなかったのは何人でしょうか？



左右確認をせずに交差点を通行する家族連れ

- 観察場所 / 東京都足立区千住柳町付近
- 観察日 / 2007年4月12日 (木曜日)
- 観察時間 / 16:25 ~ 17:25



Q2

歩行者と接触しそうになる自転車を目撃！
事故を防ぐには、自転車はどのように通行すればよいのでしょうか？

自転車は出会い頭事故が多い

平成18年中の自転車乗車中の交通事故発生件数は174,262件。その内の半数以上(52.8%)を出会い頭衝突が占め、次いで右折時衝突(11.4%)、左折時衝突(10.3%)の順に多くなっている。

自転車の交通事故の相手は、8割以上がクルマ。自転車は、交差点を通行する際にはスピードを落とし、注意して通行することが大切だ。

(警察庁交通局資料)

こんな事故が起きています

道路交通法

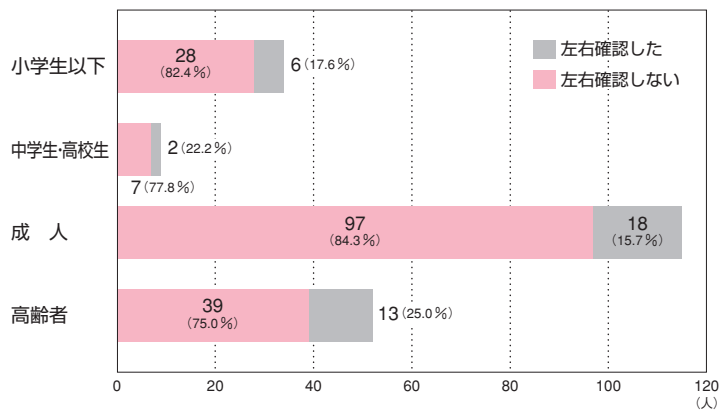
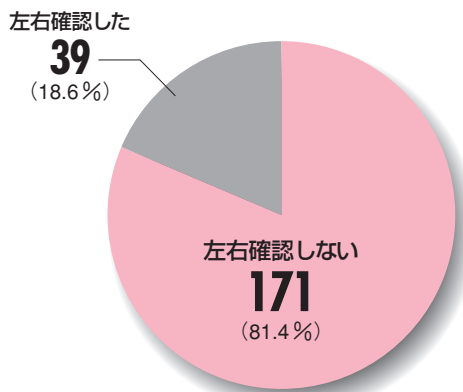
交差点における他の車両等との関係等 (法36条第4項抜粋)

自転車は、交差点に入ろうとする場合、および交差点を通行するときは、「交差道路を通行する車両等」「反対方向からくる右折車両等」「横断歩行者」に特に注意し、かつ、できる限り安全な速度と方法で進行しなければならない。

……実際に観察しました

Q1
の解答 **171人 (81.4%)**

●信号機のない交差点を通行する自転車利用者の左右確認状況 (210人中)



※小学生以下 (12歳以下)、中学生・高校生 (13～18歳)、成人 (19～64歳)、高齢者 (65歳以上) の判断は観察者の見解による

1時間の観察で、この小さな交差点を通行した自転車利用者は210人。その内、しっかりと左右の安全確認を行ったのは39人 (18.6%)。約8割は左右の安全確認が不十分な状態で交差点を通行していた。



駐車車両の横から安全確認・一時停止をせずに飛び出す子ども

交差点を通行する自転車利用者の中には、交差点内に進入してから左右を確認するとい

う人もいた。自転車利用者の多くは、徐行や減速をしていなかった。また、道幅の狭い通りを通行したほとんどの自転車が停止線の手前での一時停止をしていなかった。

CLOSE UP

道路を遊び場とする小学生の自転車

観察場所は、幼児から高齢者まで多くの人が自転車を利用していた。中には、周辺を遊び場に行っているのか、同じところを周回する小学校低学年と思われる子どもの自転車も見かけた。

Q2 の解答 停止線の手前で一時停止を

【解説】 信号機のない小さな交差点では、徐行や減速もせず、左右の安全確認が不十分なまま交差点に進入してしまう自転車も目立つ。慣れた道だから安全と思込み、左右確認をせずに交差点を通行すると、同じように安全確認が不十分なクルマや自転車、歩行者と接触してしまう。

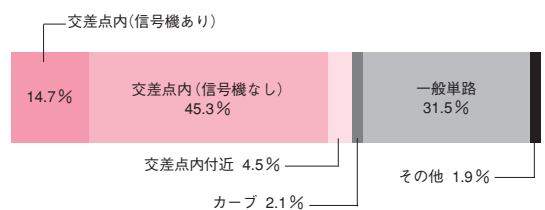
ここがポイント

- 一時停止標識がある場所では、自転車も必ず停止する
- 交差点を通行する際には、左右の安全確認をしっかりと行う

ワンポイント DATA

自転車事故は信号機のない交差点で多い

自転車の道路形状別事故件数 (構成率)



平成17年の自転車事故のうち、交差点内の事故が60.0%を占めており、特に信号機のない交差点での事故が45.3%を占めている。

(財) 交通事故総合分析センター資料